



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クリオラベルヴィ豊平	階数	地上10階
建設地	札幌市豊平区豊平6条7丁目30-62	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	115 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2021年11月 予定	評価の段階	
敷地面積	974 m ²	評価の実施日	
建築面積	360 m ²	作成者	
延床面積	2,349 m ²	確認日	
		確認者	

「配慮シート」に外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記②オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEE][BEIm]= 0.88

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 シャープな外観、緑豊かな植栽の建物とし、省エネルギーに配慮した計画とした。	A 省エネルギー 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に適合する計画とした。 設計住宅性能評価外皮性能の等級4を取得した。	
B 省資源等 GL工法の採用等将来的な更新のしやすい計画とした。 排水管を耐久性が高い材料を選定した。	C 緑化 道路沿いを重点的に高木、低木の植栽計画とした。	D 雪処理 駐車場、通路にガス温水式ロードヒーティングを施し溶雪する計画とした。 敷地に接する歩道の一部にもロードヒーティングを設置する計画とした。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0					
クリオラベル豊平		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)					
スコアシート							
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							3.0
Q1 室内環境				0.40		-	3.5
1 音環境			3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	
1.3 吸音			1.0	-	1.0	-	
2 温熱環境			1.8	0.35	4.0	1.00	3.6
2.1 室温制御			2.2	0.71	4.0	1.00	
1 室温			3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	省エネ	住宅性能評価「5-1断熱等級」等級4取得	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				-		-	
2.2 湿度制御			1.0	0.29	-	-	
2.3 空調方式			-	-	-	-	
3 光・視環境			2.2	0.25	3.0	1.00	2.9
3.1 昼光利用			4.2	0.30	3.1	0.50	
1 昼光率		ホールの昼光率2.5以上、住戸の昼光率0.85	5.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口		Dタイプ南東の窓有		-	5.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策			1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御	省エネ		1.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策				-		-	
3.3 照度			3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御			1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境			4.2	0.25	4.5	1.00	4.4
4.1 発生源対策			5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用している	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室の面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。		-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-		-	
1 CO ₂ の監視				-		-	
2 喫煙の制御				-		-	

Q2 サービス性能			3.0	0.30	-	-	3.2
1 機能性			3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	各住戸にGbitクラスの回線が使用可能な環境を整備している。		-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.5	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	住宅性能評価 劣化対策等級3取得	5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 ビニルクロス貼り+GL工法	4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 排水管にB種以上の配管を使用	5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.0	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり				-	2.8	0.50	
1 階高のゆとり		階高2.9以上(2.92m以上)		-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源緑化	・空地率が60%以上80%未満 ・緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積30%以上 ・室外機を設置しない ・高温排熱の機器を設置しない	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	5-1断熱等性能等級4相当である。	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		2.0	0.10		-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.88 -	4.4	0.50		-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
集合住宅の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	GLI法の採用	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			4.4	0.20	-	-	4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	現場発泡ウレタンフォーム(ノンフロン)製品の使用	5.0	1.00	-	-	
3 冷媒	省資源		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2 換算スコア:4.2	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 増処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 暫処理		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン一部チェック、広告照明を行わない。	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.2	BEEランク	B+
建物名称	クリオラベルヴィ豊平				
建物用途	集合住宅				
延床面積	2,348.8 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 24.1 最低点 7.5)				合計		16.3点 /24.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.4	/2.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2	/4.0
Q1 光・視環境	スコア	0.7	/2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.8	/10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/4.0
B 省資源等 (最高点 23.9 最低点 7.5)				合計		15.5点 /23.9点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.8	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	2.1	/2.1
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.2	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	/4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		7.0点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4	/6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.8	/2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数